統一部

文在寅の韓半島政策

平和と繁栄の韓半島

統一部

www.unikorea.go.kr
発行先　統一部　ソウル特別市鍾路区世宗大路209政府ソウル庁舎

文在寅の韓半島政策

文在寅の韓半島政策は開かれた政策です。
この小冊子は大統領選挙での公約をはじめ、国政課題、ベルリン構想、光復節の祝辞などを通じて発表してきた政策の方向性をまとめたものです。
文在寅の韓半島政策は、南北関係だけでなく、平和と統一、新経済地図などを含む韓半島の未来を導く包括的な構想です。
文在寅政権は、国民の熱い要望により発足した政府であるだけに、大韓民国の主権者である国民との意思疎通を図り、韓半島政策を完成してまいります。
その過程で、北朝鮮 (朝鮮民主主義人民共和国) や国際社会とも積極的に意思疎通を図ってまいりたいと考えております。
こうした意思疎通と協力により出来上がった政策であれば、政権が変わっても持続可能な政策になるはずです。
国民の皆様のご意見をお待ちしております。

目次

文在寅の韓半島政策

01 政策の背景 …… 4 – 11

02 政策ビジョン …… 12 – 17

1. 平和共存
2. 共同繁栄

03 3大目標 …… 18 – 23

1. 北朝鮮の核問題の解決と恒久的な平和定着
2. 持続可能な南北関係の発展
3. 韓半島の新経済共同体の実現

04 4大戦略 …… 24 – 31

1. 段階的・包括的アプローチ
2. 南北関係改善と北朝鮮の核問題解決の並行推進
3. 制度化を通じた持続性の確保
4. 互恵的協力を通じた平和的統一基盤の構築

05 5大原則 …… 32 – 35

1. 韓国主導による韓半島問題の解決
2. 強固な安全保障による平和維持
3. 相互尊重に基づく南北関係の発展
4. 国民との意思疎通と合意の重視
5. 国際社会との協力による政策の推進

政策の背景

※ 臨津江と漢灘江が合流し形成されたこの地形は、韓半島の形をしており、京畿道漣川郡の
「韓半島統一未来センター」の近くに位置しています。

01 文在寅の韓半島政策

01 政策の背景

冷戦が終結したにもかかわらず、韓半島は依然として軍事的に対立しており、不安定な平和が続いています。
国際社会からの厳しい制裁にもかかわらず、北朝鮮は核とミサイルによる挑発を続けており、韓半島だけでなく、世界の平和と安定を脅かしています。
そのため、韓半島をめぐる軍事的緊張はかつてないほど高まり、偶発的な衝突の危険性も常に存在しています。

挑発と制裁、そして再び挑発につながる悪循環を断ち切るためには、韓半島の平和定着に向けた根本的な戦略が必要です。

■ ‘平和’ を最優先課題に

平和は、私たちが目指すべき最優先の価値であると同時に正義であり、繁栄のための土台であります。平和なしには何もできません。
強固な安全保障をもとに平和を守り、平和を築いていくことにより、恒久的に平和が定着するよう取り組んでまいります。
平和を定着させることで、南北が対立することなく共存することが可能となり、統一に向けた扉もおのずと開くはずです。

これまで北朝鮮の核問題を解決すべく、時には制裁と圧力、時には対話と交渉といった形で多方面から取り組んできたにもかかわらず、北朝鮮の前向きな変化を引き出すには限界がありました。北朝鮮の核問題の根本的な解決を図るためには、北朝鮮体制の安全を踏まえた包括的かつ創造的なアプローチが必要です。

南北間の相互尊重の精神と信頼に基づき、北朝鮮の核問題を根本的かつ平和的に解決する必要があります。

■「相互尊重」の精神に基づく政策の推進

私たちは、「北朝鮮の崩壊」「吸収統一」「人為的統一」を望まない (3-No) という考え方に基づき、南北が互いに尊重し合い、協力しながら、「共に繁栄する韓半島」を築いていくという明確な意志を示しました。
南北が互いの違いを認め合い、共通の利益のために協力してこそ、真の「平和と繁栄の韓半島」を実現することができます。
こうした相互尊重の精神に基づき、南北対話を再開し、相互利益となる交流 · 協力を拡大していくことで、南北関係を修復し、韓半島の平和を実現してまいります。

文在寅政権の「3-No」は、1989 年以来、歴代政権が築いてきた公式的な統一方案である「民族共同体統一方案」の基本精神に基づいています。
「民族共同体統一方案」は、南北が「和解協力の段階」と「南北連合の段階」を経て、最終的に一つの民族 · 一つの国 · 一つの体制を持つ「統一国家」を建設する**「段階的 · 漸進的な統一」**を目指しています。
「3-No」も同じく、北朝鮮を和解 · 協力の対象として尊重し、最終的には南北間の合意による平和統一を目標としています。

01 政策の背景

政権交代のたびに対北朝鮮政策の推進が滞り、南北間の合意が守られなくなったことで、南北関係は悪化と改善を繰り返しています。
また、統一問題や対北朝鮮政策をめぐる韓国社会の葛藤も依然として解消されておらず、不要な論争が続いています。
平和を築き、守っていくためには、韓半島周辺国の参加を促し、平和の制度化を進める必要があります。

持続可能な南北関係の発展に向けた土台を構築する必要があります。

■「一貫性」と「持続性」を目指して

歴代政権の対北朝鮮政策を尊重し、継承すべきところは継承し、さらに発展させてまいります。
国民的合意に基づき、△統一国民協約(国内)、△南北基本協定(南北関係)、△韓半島平和協定(国際)を締結し、制度に裏付けられた持続可能な南北関係を確立してまいります。

韓国経済は、低成長や少子高齢化により、活力低下が続いています。
これらの問題を解決するためには、新たな成長エンジンを確保する必要があります。
南北が経済的に一つにつながれば、大陸と海洋に向かって伸びていく新しい経済地図を描くことが可能になります。
南北と周辺国間の経済的な利害が一致すれば、対立や紛争の平和的な解決につながるはずです。

平和と経済協力の好循環をもとに、韓半島を超え、北東アジアまで網羅する平和と共同繁栄の秩序を作り上げていく必要があります。

■「政策の領域」を北東アジアと国際社会に拡大

政策の範囲は韓半島だけにとどまらず、北東アジア諸国と国際社会までも含んでいます。韓半島の利益だけでなく、周辺国と国際社会にとってもプラスになる協力を拡大することで、韓半島と北東アジア、ひいては世界の平和と繁栄を築いてまいります。

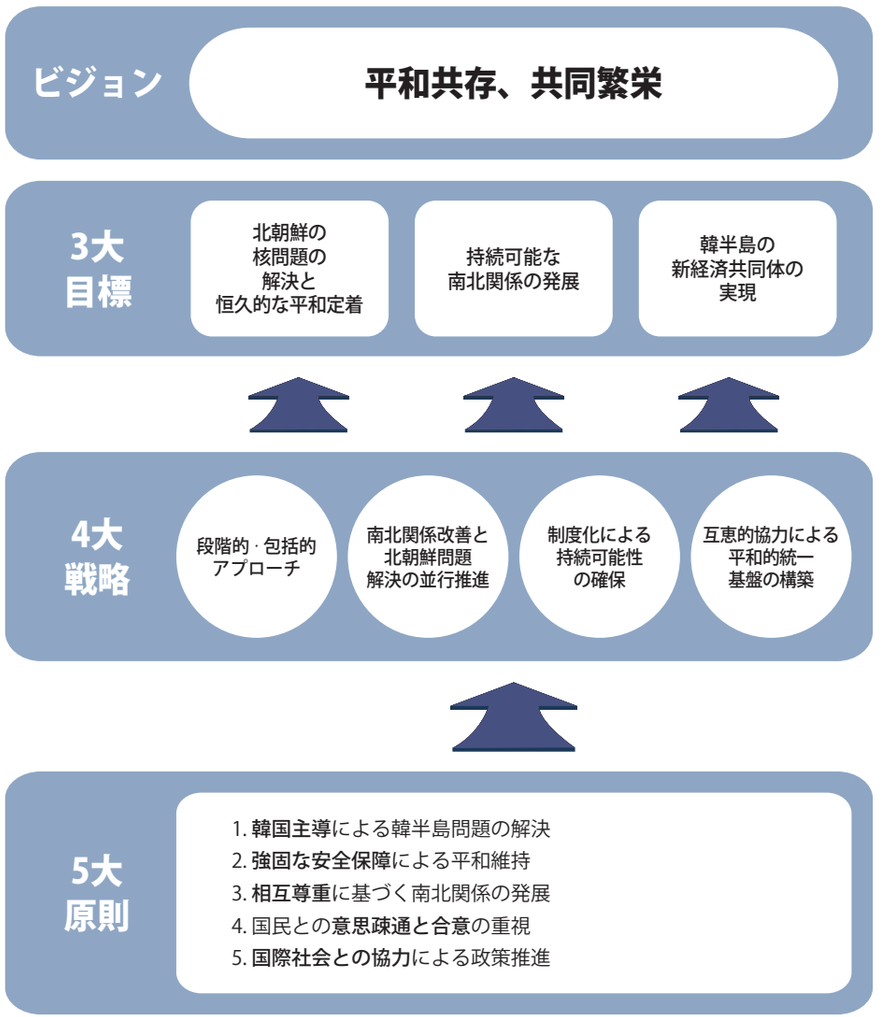
01 政策の背景

私たちが目指しているものはただ一つ、平和です。平和な韓半島とは、核と戦争の脅威のない韓半島のことです。南北が互いを認め、尊重し、共に繁栄する韓半島です。我々は、すでに韓半島に平和をもたらす方法を知っています。それは「6.15 共同宣言」と「10.4 首脳宣言」に立ち戻ることです。南北はこの２つの宣言を通じ、韓半島問題の当事者がわが民族であることを明確にし、半島における緊張緩和と平和定着に向けた緊密な協力を誓い合いました。経済分野をはじめとする社会の各分野における協力事業を通じ、南北が共同繁栄の道を進んでいくことを約束しました。両者が相互尊重を土台として結んだこれらの合意の精神は、今なお有効です。そして切実です。南北が共に平和な韓半島を実現しようとしたその精神に立ち戻らなければなりません。

私は、この場ではっきりと申し上げます。私たちは、北朝鮮の崩壊を望みません。いかなる形の吸収統一も進めません。人為的な統一も追求しません。統一は、双方が共存共栄しながら民族共同体を回復していくプロセスです。統一は、平和が定着すれば、南北間の合意によって自然と実現するものです。私と韓国政府が実現しようとしているものは、ただ一つ、平和です。

(2017 年 7 月 6 日 ドイツ　ケルバー財団招請演説)

文在寅の韓半島政策推進体系のイメージ



政策ビジョン

02 文在寅の韓半島政策

1. 平和共存
2. 共同繁栄

02 政策ビジョン

1 平和共存

**平和なしには安全保障も経済成長も実現できないため、
「平和共存」は、私たちが取り組むべき最優先課題であり、
ビジョンであります。**

停戦協定締結後、64 年が経過した現在も、韓半島は対決と緊張の不安定な状況が続いています。
北朝鮮の核・ミサイルの脅威のなかで、平和構築は私たちの生存にかかわる問題であると同時に、最高の国益であり、新たな経済的繁栄のための基盤です。

**「平和共存」は、南北の住民が核戦争の恐怖から抜け出し、
穏やかな日常が保たれることを意味します。**

平和は、単に戦争のない状態が続くことを意味するものではありません。
北朝鮮の核問題の平和的解決、南北間の政治・軍事的信頼の構築、韓半島での平和体制構築などを通じて、積極的かつ恒久的な平和を実現してまいります。

「平和共存」は、それ自体が平和統一に向けたプロセスです。

南北間の平和を制度化し、互いにとって脅威とならずに共に生きていけば、民族の同質性と共同体意識を回復し、平和的に統一を成し遂げることができます。

> 今日、韓半島の時代的使命は言うまでもなく、平和です。韓半島での平和定着による分断の克服こそが、「光復」を成し遂げる道です。
> 平和はまた、私たちの生存戦略でもあります。安全保障も、経済も、成長も、繁栄も、平和なしには未来を築くことはできません。
> 平和は私たちに限った問題ではありません。韓半島に平和がなければ、北東アジアにも平和はなく、北東アジアに平和がなければ、世界の平和は崩壊します。
>
> （2017 年 8 年 15 日　第 72 周年光復節祝辞）

2 共同繁栄

「共同繁栄」は、南北が互恵的な協力の価値を共有し、実践していくことで、共に繁栄する韓半島を目指します。

これは、韓国経済の未来の成長エンジンを創出すると同時に、南北の住民が利益を享受する新しい経済共同体を形成していくことを意味します。

経済協力の範囲は韓半島だけにとどまらず、北東アジア諸国にまで拡大した「共同繁栄」を目指します。

韓国経済の領域を、北朝鮮と大陸に拡大し、韓半島をユーラシア大陸と太平洋を結ぶ架け橋として発展させてまいります。
これにより、韓半島だけでなく、北東アジア諸国も共に利益を享受する開かれた繁栄を追求してまいります。

平和と経済の好循環の中で、「共同繁栄」を実現します。

平和による経済協力を実現し、経済協力が平和をより一層発展させる関係の中で、平和と繁栄を実現し、深化させてまいります。

> 北朝鮮の核問題が解決に向かい、適切な環境が整えば、韓半島の経済地図を新たに描いていきます。軍事境界線によって断絶した南北を経済ベルトでつなげ、南北が共に繁栄する経済共同体を実現します。南北は、大陸と海洋を結ぶ架け橋として共同繁栄するでしょう。そのとき、世界は平和の経済、共同繁栄の新たな経済モデルを目にすることになります。
>
> (2017 年 7 月 6 日　ドイツ・ケルバー財団招請演説)

3大目標

03 文在寅の韓半島政策

1. 北朝鮮の核問題の解決と恒久的な平和定着
2. 持続可能な南北関係の発展
3. 韓半島の新経済共同体の実現

03 3大目標

1 北朝鮮の核問題の解決と恒久的な平和定着

北朝鮮の核問題の平和的解決は、韓半島の平和のために必ず達成しなければならない最優先の目標であり、課題であります。

北朝鮮の核問題は、我が民族の生命と安全、そして国際社会の平和を脅かすものであり、私たちはこれを容認できません。
韓国が主導的な役割を担い、国際社会との協力、制裁と対話の並行などといった包括的かつ大胆なアプローチを通じて、北朝鮮の核問題を解決してまいります。

60年以上続いてきた不安定な停戦体制を、恒久的な平和体制に転換します。

韓半島の平和体制は、単なる文書上の合意にとどまらず、平和が実質的・制度的に保障される状態を意味します。
こうした平和体制の構築は、韓半島はもちろんのこと、北東アジア全体の平和と繁栄につながるでしょう。

> 韓国政府は発足してから今まで、明確で一貫した原則を持って韓半島問題に臨んできました。これからも同じです。第1に、韓半島での平和定着です。第２に、韓半島の非核化です。第３に、南北問題の主導的な解決です。第４に、北朝鮮の核問題の平和的解決です。第５に、北朝鮮の挑発に断固たる対応をとることです。
>
> (2017 年 11 月 1 日　国会での施政演説)

2 持続可能な南北関係の発展

相互尊重・和解協力・信頼構築といった南北間の合意の基本精神を継承し、発展させていきます。

7・4 南北共同声明、南北基本合意書、6・15 共同宣言、10・4 首脳宣言など、これまでの合意は、歴代政権が南北関係の発展のために長い時間をかけて生み出した努力の結果であり、これらは尊重されるべきであると同時に、守られなければなりません。

南北関係の持続的な発展に向けた土台を築いていきます。

国民的合意に基づき、南北間の合意を法制化し、その制度を平和統一に向けた資産として取り扱ってまいります。
さらに、統一問題や対北朝鮮政策をめぐる韓国社会の葛藤を解消し、国民的コンセンサスを形成してまいります。
これをもとに、統一政策・対北朝鮮政策における一貫性と持続性を確保してまいります。

> 歴代政権が推進してきた南北合意は、政権が変わっても、必ず尊重されるべき重要な資産です。現政権は、歴代政権の合意を南北が共に立ち戻らなければならない原則として捉えています。また、当面の南北問題と韓半島問題の解決方法を、これまでの合意から見出していく考えです。
>
> (2017 年 6 月 15 日　南北首脳会談 17 周年記念式典での祝辞)

03 3大目標

3 韓半島における新経済共同体の実現

南北が共存共栄できる一つの市場を形成し、新たな経済成長エンジンを創出し､共に繁栄する南北経済共同体を構築します。

南北間の「相互信頼」と「互恵性」に基づく経済協力を強化し、
韓国経済の新たな活路を見出し、北朝鮮の変化と北朝鮮の住民の実質的な暮らしの改善につなげてまいります。
これにより、南北の共同繁栄に向けた経済的土台を築き、経済統合の基盤を固めていくことが可能になると考えます。

３大経済ベルトの構築により、韓国経済の領域を大陸を超えて世界へ、さらに、未来へと飛躍する韓半島の新経済地図を描いていきます。

▶ 3大経済ベルトとは？
- **環東海圏：**元山(ウォンサン)･咸興(ハムン)、端川(タンチョン)、羅先(ナソン)、ロシアをつなぐエネルギー･資源ベルト
- **環西海圏：**首都圏、開城(ケソン)･海州(ヘジュ)、平壌(ピョンヤン)･南浦（ナムポ)、新義州(シニジュ)、中国をつなぐ交通･物流･産業ベルト
- **国境地域：**DMZ生態平和安保観光地区、統一経済特区をつなぐ環境･観光ベルト

韓半島を超え、中国やロシアをはじめとする北東アジア諸国との様々な経済分野における協力事業により、韓半島と北東アジアにおいて、平和と繁栄の新たな経済秩序を作り上げてまいります。
まずは関係国と実現可能な協力事業を推進し、
北朝鮮の核問題が転機を迎えたときに、北朝鮮も参加できる形にする考えです 。

南北間、北東アジア諸国間の相互経済協力関係を築いていくことで、北朝鮮の核問題の解決はもとより、軍事的緊張の緩和、多国間の安全保障協力の強化につなげていきます。

私は数回にわたって「韓半島新経済地図」と「新北方経済ビジョン」について触れてきました。北東アジア経済共同体の土台を固め、多国間で安全保障協力を実現してはじめて、北東アジアに真の平和と繁栄が訪れると信じています。

(2017 年 9 月 22 日　第 7 回国連総会での基調演説)

4大戦略

04 文在寅の韓半島政策

1. 段階的·包括的アプローチ
2. 南北関係改善と北朝鮮の核問題解決の並行推進
3. 制度化を通じた持続性の確保
4. 互恵的協力を通じた平和的統一基盤の構築

04 4大戦略

1 段階的・包括的アプローチ

北朝鮮の核問題に対し、制裁・圧力と対話を並行し、段階的にアプローチし、平和的に解決していきます。

制裁と圧力は、北朝鮮に核・ミサイル挑発を止めさせ、
北朝鮮を非核化に向けた対話の場に引きずり出すためのものです。
対話の環境が整えば、関係国と緊密に連携し、まずは核を凍結し、
段階的に北朝鮮の完全な核廃棄を進めてまいります。

安全保障に関連した懸案を包括的に協議・解決していきます。

北朝鮮体制の安全を保障し、その上で北朝鮮の核問題を解決してまいります。
北朝鮮の核問題を解決していく中で、南北間の政治・軍事的信頼の構築、韓半島での平和体制の確立、北朝鮮と国際社会との関係改善などについて共に協議し、安全保障上の脅威を根本的に解消してまいります。

> より根本的な解決策は、北朝鮮の核問題を根本的に解決することです。北朝鮮の核問題は、以前にも増して高度化し、難しくなりました。段階的かつ包括的なアプローチが必要です。韓国政府は、国際社会と共に北朝鮮の核の完全な廃棄と平和体制の構築、北朝鮮の安全保障・経済的懸念の解消、米朝関係および日朝関係の改善など、韓半島と北東アジアの懸案の包括的な解決を図っていきます。
>
> (2017年7月6日　ドイツ・ケルバー財団招請演説)

2 南北関係改善と北朝鮮の核問題解決の並行推進

北朝鮮の核問題の解決と南北関係の改善は、優先順位や二者択一の問題ではなく、相互補完による好循環の中で推進しなければなりません。

私たちは、かつて南北対話が活発に行われていた際、北朝鮮の核問題が前進し、韓半島の状況も安定的にコントロールした歴史的な経験があります。

- √ 1998年、金倉里(クムチャンリ)疑惑が発生した際、韓国の構想を米国に伝え、「ペリー・プロセス」に反映
- √ 2005年、6者協議が膠着状態に陥った際、北朝鮮に特使を派遣し、9・19共同声明の採択に一助
- √ 2007年にBDA問題が浮上した際、韓国政府の平和体制構想を米国に伝え、2・13合意の締結を加速

南北間で対話と交流を積み重ね、基本的な信頼関係を構築してこそ、北朝鮮の核問題の解決に向けた多国間対話でも、韓国の主導で米国や中国などの周辺国の協力を引き出すことができます。

> 北朝鮮がミサイル発射実験の凍結や核実験の中止を掲げていた時期は、例外なく、南北関係が良好だったことを忘れてはなりません。そうした時期に、米朝、日朝間の対話も進展を見せ、北東アジアの多国間外交も活発に展開されていました。私がことあるごとに、韓半島問題の当事者は韓国であると強調している理由も、まさにここにあります。
>
> (2017年8月15日　第72周年光復節祝辞)

3 制度化による持続可能性の確保

国民的合意に基づく「統一国民協約」を推進し、持続可能で一貫性のある対北朝鮮政策の推進に向けた環境を整えていきます。

国民との意思疎通により、統一問題や対北朝鮮政策に対する国民のコンセンサスを広げ、合意を形成してまいります。
韓国社会に存在する「認識の違い」を認め、尊重しつつ、共通認識を深めていくことで、葛藤や対立を克服してまいります。

南北間の合意を法制化し、「南北基本協定」を締結することで、政権が変わっても約束が守られる南北関係を確立します。

南北間の合意を法制化し、持続可能な南北関係の発展に向けた基本的な資産にします。
また、時代の変化に合った「南北基本協定」を締結し、北朝鮮も合意を尊重・履行するような環境を整えてまいります。

「韓半島平和協定」を締結し、平和の構造をしっかりと定着させます。

当事国が参加する「韓半島平和協定」を締結し、南北間の敵対関係を平和と協力の関係に転換し、恒久的かつ持続可能な平和を実現してまいります。

> 国内では南北合意の法制化を推進します。すべての南北合意は、政権が変わっても継承されるべき韓半島の基本資産であることを明確にします。韓半島に恒久的な平和構造を定着させるためには、終戦と同時に関係国が参加する韓半島平和協定を締結する必要があります。
>
> (2017年7月6日　ドイツ・ケルバー財団招請演説)

4 互恵的協力による平和的統一基盤の構築

経済分野をはじめ、南北住民の利益となる多様な交流・協力を拡大することで、南北共同体を築き上げます。

分断で苦しんでいる離散家族の問題は、いかなる政治的考慮よりも優先し、解決を図ってまいります。北朝鮮の乳幼児など弱者に対する人道支援は、政治的状況と切り離し、継続的に推進してまいります。
人類の普遍的価値として、北朝鮮の住民の自由権と生存権を統合的に考慮し、北朝鮮の人権を実質的に改善してまいります。
また、民間・地方自治体の交流など、多方面での交流・協力を拡大・加速することで、南北関係を修復し、民族の同質性を回復してまいります。
環境が整い次第、「韓半島新経済地図構想」など経済協力事業を本格的に推進することにより、南北経済共同体の基盤を築いてまいります。

南北のすべての構成員が合意する平和的・民主的方式の統一を目指します。

南北が共存共栄し、民族共同体を回復する「過程としての自然な統一」を目指してまいります。
南北の住民が、自分はもとより次世代のために統一が必要であるという認識を持つよう、環境を整えてまいります。

> 政治以外の分野における交流・協力事業は、政治・軍事的状況と切り離し、一貫して進めていきます。南北の交流・協力事業は、韓半島のすべての構成員の痛みを癒し、和解を成し遂げる過程であり、内部から平和を築き上げていくプロセスです。
>
> (2017年7月6日　ドイツ・ケルバー財団招請演説)

5大原則

05 文在寅の韓半島政策

1. 韓国主導による韓半島問題の解決
2. 強固な安全保障による平和維持
3. 相互尊重に基づく南北関係の発展
4. 国民との意思疎通と合意の重視
5. 国際社会との協力による政策の推進

05 5大原則

1 韓国主導

韓半島問題の当事者として、南北の和解協力と韓半島での平和・繁栄に向けた取り組みを主導します。

開放と協力に基づく「開かれた姿勢」で、国際社会と共に平和と繁栄の新しい秩序をつくります。

> 分断は、冷戦の中で私たちの力で、私たちの運命を決めることができなかった植民地時代が残した負の遺産です。しかし、今や私たちは、自力で私たちの運命を決めることができるほど、国力が強化しました。韓半島の平和も、分断の克服も、私たちの力で実現しなければなりません。
>
> (2017年8月15日　第72周年光復節祝辞)

2 強固な安全保障

揺るぎない米韓同盟と防衛力をもとに、強固な安全保障体制を維持していくことで、北朝鮮の挑発を抑止し、韓半島に平和を定着させます。

「平和の維持」を超え、北朝鮮の核問題の平和的解決と恒久的な平和定着など「平和の構築」に取り組んでいきます。

3 相互尊重

南北間の違いを認め、北朝鮮の崩壊、吸収統一、人為的統一を目指しません。

こうした相互尊重の精神に基づき、南北間におけるこれまでの合意を継承・発展させ、互恵的な交流・協力を拡大することで、共に繁栄する南北共同体を実現していきます。

4 国民との意思疎通

政府が一方的に政策を推進するのではなく、国民の参加を促し、双方向の意思疎通を図りながら、共に政策を練り、完成していきます。

国会、自治体、市民団体、専門家など多様な主体の参加を促し、意思疎通の制度化を通じて、統一に関する国民のコンセンサスと社会的合意を形成していきます。

5 国際協力

北朝鮮の核問題の解決と韓半島の平和定着に取り組むなかで、国際社会と緊密に協力していきます。

「韓半島新経済地図」により、周辺国との繁栄を目指し、韓半島平和統一に対する国際社会からの支持を得られるよう、取り組んでまいります。

皆様のご意見をお聞かせください

文在寅の韓半島政策は
国民の皆様の参加と意思疏通を図り、完成していきます。
皆様のご意見をお待ちしております。
ありがとうございました。

韓国政府は、平昌冬季五輪が平和の祭典になるよう、
南北関係においても取り組んでまいります。